

要介護高齢者のBPSDに対してアクティビティ・トイを用いた活動は有効か？

杏林大学 保健学部 作業療法学科 斎藤ゼミ

活動経緯

■昨年度地域交流活動

学生ボランティアが「アクティビティ・トイ」を用いて要介護高齢者と交流する機会を得た。

結果

骨折の既往がある利用者が手指を自ら動かさず、難聴で周囲とコミュニケーションが取れない利用者が積極的に参加し、教育的側面からも要介護高齢者の理解および環境適応が円滑に進めることができていた。



新型コロナウイルスの影響を受けて、活動STOP!

対象としていた要介護高齢者の一部にはBPSDの悪化が見られた。
(生活様式の変化も大きく影響していると考えられる)



活動目的

- アクティビティ・トイ (KAPLA) を用いたボランティア活動を行い、BPSDの有効性について検証することとした。

アクティビティ・トイ (KAPLA)

- 8×24×120mmのシンプルな白木の積み木
- 井型にどんどん積み上げ、誰が一番高く積めるか競争したり、図柄や建物を作ることもできる。



《リハビリの視点として・・・》

- 積み上げるに従い、少しずつ体幹を伸展させ、上肢を挙上させることで座位または立位の持久力やリーチ動作の改善、関節可動運動の効果が期待できる。



活動先

特別養護老人ホーム「愛全園」(昭島市)



開設：昭和39年 (特養東京都第一号)
定員：特養112名 ショートステイ20名

活動計画

- 学生と要介護高齢者がアクティビティ・トイ (KAPLA) を用いて月3回程度活動し、交流する。1回あたりのボランティア活動時間は3時間程度とする。

■活動手順

- ①緊急事態宣言解除後より、実施場所との日程調整、新規参加学生の募集と活動のレクチャー、身体機能およびコミュニケーション、BPSDに関する評価実施。
- ②集団活動 (ボランティア活動) 開始 評価実施。

■参加者

- ・要介護3-4高齢者 10名 (集団対応)
- ・ボランティア参加学生 (各回5名)

※ボランティア学生の導入が難しい場合は、責任者で対応することとしていた。

活動結果

- 緊急事態宣言解除後、ボランティア活動開始の時期について施設側と協議を続けていたグループ活動再開が難しい状況が続いている。そのため、ボランティア学生導入は難しいと判断した。また、責任者1人でのグループ対応も難しい状況となったため、中止せざるを得ない状況となった。

- 今回の経験を通して、オンラインなど活動方法について多岐にわたって今後模索していく予定である。